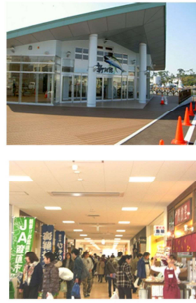


人々が集う水辺の街づくりの実践

港を軸にした水辺の街づくり

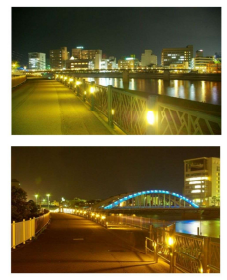
当社が行う街づくりは、河川や港を軸にした水辺の街づくりを、風土・歴史等を活かしながら地域の人々といっしょに創生いたします。主な実績としては、狩野川を軸にした沼津市セントラルパーク、沼津港を軸にした沼津港港湾振興ビジョンなどがあり、産官学の連携を図りながら地域が一体となった活性化を推進しております。



年間 140 万人を超える来港客で賑わう沼津港

河川を軸にした水辺の街づくり

テーマは 「水辺の風を感じる街づくり」
 主な施策は 「水辺を結ぶ、水辺に憩い・集い・遊ぶ、水辺を美しく、水辺に文化を」



沼津市の中心部を流れる狩野川と夜間のライトアップ

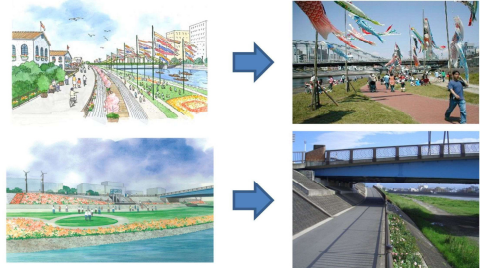
● 産官学連携による水辺の街づくり ●

沼津港マップは、一軒一軒のお店を日本大学国際関係学部（三島市）の学生たちが約半年かけて取材し、お店の目玉商品の写真撮影から、マップのデザインと文章の構成までを日大生が作製したことで、マスコミからも取り上げられ県外でも話題になりました。



日本大学国際関係学部が作製した沼津港の名店マップ

● 水辺を結ぶ ● (回遊性の高い水辺の動線)



● 地元大学生による情報発信 ●

また、沼津港で水揚げされたサバを使った「沼津港ラーメン」を、日本大学国際関係学部（三島市）の学生たちが考案したことも県外に情報発信され話題になるなど、産官学が一体となって水辺の街づくりを推進しております。



日本大学国際関係学部によるアンケート調査と情報発信

● 中央公園のフリーマーケット ●

(水辺公園の集いの様子)



● 狩野川と接する旧東海道川廊通りの石畳 ●

(水辺文化の継承)

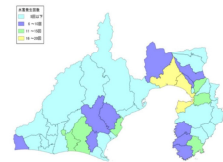


人々が協力しあう住宅街における水害対策の実践

【 市町村ごとの水害発生回数 】
(1977 年～2010 年)

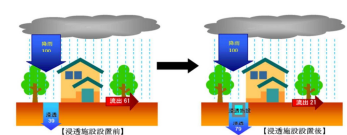
黄色の市町では 1 年半に一度
 緑色の市町では 2 年に一度
 青色の市町では 3 年に一度 の割合で水害が発生している。
 近年は集中豪雨等が増え、水害の発生回数は今後も増加傾向にある。

資料出典：国交省水害統計



【人々が協力しあう水害対策】

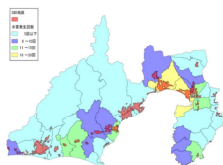
流域が一体となって、宅地の 6 割以上の面積を占める屋根の雨水を、浸透施設で地下に浸透させると、宅地からの流出量は 1/3 程度に抑制される。



【 水害発生回数と DID の重ね図 】
(1977 年～2010 年)

都市化が進展する人口集中地区 (DID) では繰返し都市型水害が発生。

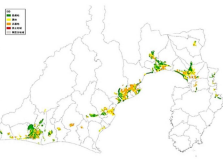
都市型水害の場合、河川改修をするにも都市化の進展により、改修に必要な用地の確保に時間がかかるなどの問題があるため、河川改修では即効性の高い浸水対策が困難となっている。



【 人口集中地区 (DID) の浸透能力 】

緑色は浸透に最適地の DID 地区
 黄色は浸透に適地の DID 地区
 橙色は浸透に非適地の DID 地区

県内の人口集中地区 (DID) では浸透に最適地および適地が比較的多い。



【 水害の昔と現在 】

<昔> 雨水が地下に浸透し、水田などに一時的に溜まっていた。



<現在> 都市化が進み、雨水が直ぐに川へ流れ出し低い土地では浸水が発生している。



【 住宅街における水害対策の実践 】

この住宅街の宅地部では貯留タンク式の雨水再利用システムを、駐車場地下に設置し、貯留と利水と浸透を行っております。道路部では、側溝の下に浸透トレンチを設置しており、公園・グラウンドにおいては、伊東市小室山公園と同じ地下式の雨水貯留浸透施設を設置しております。これによって、健全な水循環を保ちながら確率降雨 50 年までの雨水を住宅街で処理しております。

